

## 登録博物館への登録と入館者数100万人

俵谷和子（当館学芸員）

### はじめに

西宮市立郷土資料館は、郷土の考古、歴史、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、市民の教育、文化の向上に資することを目的として昭和60年7月10日に開館した。分館の名塩和紙学習館は、平成元年11月に市立名塩小学校の施設として開館、同14年4月には、より広く一般に利用されることを目的として、郷土資料館分館名塩和紙学習館として再開館した。国指定重要無形文化財・県指定無形文化財である名塩紙製造技術の教育普及施設として関係資料の常設展示とともに、名塩紙の特徴と和紙製造の原理を分かりやすく体験的に学ぶことができる。

郷土資料館は、開館して28年が経過し、集積した実物資料も3万点を超えるとともに、各種の展示や教育普及事業等にも積極的に取り組んできた。今後も責任をもってこれら資料の保存及び充分な活用を行なうため、そのステップアップを図るとともに、市内に所在する文化財を歴史資料として位置づけ、積極的に情報の収集を行い、さらなる活用を行っていくために郷土資料館を地域の文化財及び歴史資料等の保存と活用の核として位置づけ、各種の展示、講座、ボランティア事業、各種機関との連携事業等を継続して行なっていく場となるよう、登録博物館の登録申請を行なった。平成25年2月18日、兵庫県28館目の登録博物館（歴史博物館）となった。

### 1. 西宮市立郷土資料館（本館）・名塩和紙学習館（分館）の概要

郷土資料館（本館）と名塩和紙学習館（分館）について、概要（表1）、施設概要一覧（表2、表3）、沿革（表4）にそれぞれまとめた。内容は申請時の情報である。

【表1】西宮市立郷土資料館の概要

	郷土資料館（本館）	名塩和紙学習館（分館）
所在地	西宮市川添町15番26号	西宮市名塩2丁目10番8号
建物面積	1,526.9㎡	425.31㎡
敷地面積	4,143.58㎡※1	470.42㎡
館の組織	館長1名※2・学芸員7名※3・事務・管理業務職員4名	
館蔵資料	37,443点	
開館日数	299日（平成23年度末）	308日（平成23年度末）
入館者数	29,633人（平成23年度末）	3,974人（平成23年度末）

※1 複合施設である西宮市教育文化センターの面積  
 ※2 市教育委員会文化財課長兼務  
 ※3 市教育委員会文化財課長補佐兼務1名を含む

（申請時の情報）

【表2】郷土資料館（本館）の施設概要一覧

階数	各部屋名等	面積	概要
地階	全収蔵庫合計	500.92㎡	
	第1収蔵庫	54.2㎡	室温湿度調整可能。古文書・絵図・歴史資料を収蔵。
	第2収蔵庫	43.51㎡	移動書架を備え、図書資料を収蔵する。
	第3収蔵庫	251.47㎡	民俗資料を収蔵する。
	第4収蔵庫	151.74㎡	考古資料・大形民俗資料を収蔵する。 収蔵庫内部に特別収蔵スペースがある。
	工作室	76.34㎡	学芸員用の作業スペース。 暗室兼写真器材保管場所が付属する。
	燻蒸庫	27.32㎡	収蔵資料の燻蒸庫。 作業用のスペースが付属する。
	その他	80.86㎡	収蔵庫前室・燻蒸庫前室・ダクトスペース等。
1階	事務室	56.4㎡	職員用の事務室。
	常設展示室	255.28㎡	各種の展示用スペース。約250点の資料を展示。
2階	講座室	158.93㎡	講座講演会用の講義室。 プロジェクター映写 スライド映写 マイク
合計		1156.05㎡	

【表3】名塩和紙学習館（分館）の施設概要一覧

階数	各部屋名等	面積	概要
1階	事務室 兼準備室	23.05㎡	職員用の事務室（原材料の保管場所を兼ねた準備室）。
	実習室	111.35㎡	紙漉き実習を行うスペース（収容人数40名。実習用漉船9基設置）。
	エントランスホール	33.65㎡	建物全体のエントランススペース／AEDを設置する。
	トイレ	27.25㎡	身障者用トイレを設置
	倉庫・階段・その他	5.14㎡	原材料等の保管場所
	合計	200.44㎡	
2階	展示室	52.82㎡	名塩和紙に関する常設展示室
	集会室	120.45㎡	学校利用時の開設スペース及び講座講演会実施場所
	トイレ	4.05㎡	集会室用
	倉庫	13.85㎡	集会室の備品等保管場所
	その他	33.7㎡	湯沸室・階段・廊下
	合計	224.87㎡	
合計		425.31㎡	

【表4】西宮市立郷土資料館の沿革

年月日	西暦	内容
昭和52年4月	1977	社会教育文化課において民俗文化財等郷土に関する資料収集を開始する。
昭和55年5月	1980	文化課において市民ギャラリー・郷土資料館を、図書館において中央図書館の建設準備事務を開始、それぞれ担当主査を配置する。
昭和57年6月	1982	郷土資料館常設展示計画検討委員会を設置。
昭和58年3月	1983	展示内容概略素案まとまる。
昭和58年4月	1983	株式会社丹青社と郷土資料館常設展示設計業務委託契約を締結。
昭和58年6月	1983	郷土資料館資料収集協力員制度充足。
昭和59年4月	1984	株式会社丹青社と郷土資料館常設展示工事請負契約を締結。
昭和59年12月	1984	西宮市立郷土資料館条例制定。
昭和60年3月	1985	常設展示室展示工事竣工。
昭和60年4月	1985	教育委員会文化課が主管課となり、郷土資料館へ移転するとともに、保管資料の移転作業を開始。
昭和60年7月	1985	郷土資料館常設展示室開館。
昭和62年3月	1987	常設展示室前室展示ケースの改修。
平成元年11月	1989	学校施設の一部として和紙学習館が開館。
平成14年4月	2002	和紙学習館のいっそうの活用のため社会教育施設として再開館。
平成20年4月	2008	本市が中核市となる。
平成22年3月	2010	郷土資料館第4収蔵庫の整備。
平成25年2月	2013	登録博物館に登録。
平成25年3月	2013	入館者数100万人となる。

## 2. 郷土資料館の事業と特徴

### (1) 郷土資料館（本館）

#### ア 特別展示

平成24年度で第28回目を迎えた特別展示は、館蔵資料や市内に所在する資料を中心に、すべて自主企画で実施している。郷土史の各時代をテーマとし、常設展示室の通史展示を補完する役割を担っている。学芸員の数年にわたる調査成果をもとに、地域の歴史に関する新しい情報を提供できる場となるようテーマを選定し、毎年1回、学校の夏季又は春季の休業中に実施している。

また、展示開催にともなって展示案内図録を作成している。展示資料の解説だけではなく関連した情報が掲載されるため、展示会終了後も西宮の歴史や民俗について簡潔に解説した冊子として人気が高い。

#### イ 企画展示

##### (ア) 企画陳列と特集展示

企画陳列は、年に数度行っていた展示資料の一部入れ替えを来館者にわかりやすく伝えることを目的に、平成4年から始めた企画性のある小展示である。常設展示とは異なる

フォーマットでタイトルパネルやネームプレートを用意し、第1回は「西宮の町人文化」を開催した。平成13年の第19回からは「特集展示」という名称に改め、平成24年度に第38回目を迎えた。

#### (イ) 今月のアラカルト

平成14年から企画陳列や特集展示などテーマ性のある展示ではなく、担当学芸員が館蔵資料から1点を選び、資料そのものに特化した詳しい解説を添えた月替わりの展示を開始した。第1回「新発見、幻の上ヶ原古墳群の須恵器。」のようにタイトルに句読点を入れるなど、親しみやすくまた興味を抱いてもらえるようにした。展示開催案内を市の広報誌に毎月掲載することで、資料館の存在を周知してもらおう目的もあった。

#### (ウ) 指定文化財公開

文化庁が実施する文化財保護強調週間にあわせて、文化の日前後に市内の指定文化財の公開展示を開催している。「慶長十年撰津国絵図」（兵庫県指定）等の実物資料、「西宮砲台」（国指定）の関連文書等の指定文化財に関連する資料などを陳列している。

#### (エ) 戦時生活資料展

西宮市立中央図書館のブックフェア（8月15日をはさむ前後2週間に開催）との共催事業として平成2年より開始し、西宮市平和資料館（西宮市教育文化センター内）の開館（平成14年）にともない終了した。

#### ウ 教育普及事業

成人向けの歴史講座、郷土資料館講座等の座学をはじめ、臨地学習として歴史ハイキング、歴史散歩等の歴史ウォークを開催してきた。児童生徒向けには、指導主事と学芸員が協働で実施したハンズオン「土よう展示室」（平成2年度～平成8年度）や市内の史跡等をクイズを解きながらめぐる「こども・れきし・たんけん」（平成14年度～平成17年度）等の事業を開催してきた。

#### エ 学校教育との連携

郷土資料館は、開館当時から学校教育との連携及び児童生徒への働きかけを重視し、館活動に取り込むよう模索してきた。小学校に対しては、郷土資料館を市内めぐりのコースに加えていただくよう広報に務めるとともに、常設展示解説用のVTRや、展示を十分に観覧していただくワークショップやクイズ形式のドリルを用意するなど、受け入れ態勢を整えている。現在、市内小学校のほぼ全校が郷土資料館、又は分館名塩学習館を訪れ、地域史の学習として展示の見学、又は紙漉き体験に取り組むことを授業に取り入れている。また、授業と関連のある収蔵資料の貸し出しや教職員の研修に資料館を利用していただく機会も設けている。

さらに、小学校社会科研究会の教諭との連携により、夏季休業中に5、6年生を対象とした「親と子の郷土史講座」を実施している。2人の小学校教諭が一組となって講師を務め、郷土史に関する講座を1日2テーマずつ連続して3日間実施する。保護者と児童生徒が一座して郷土史について詳しく学習するとともに、各種の実習体験やミニ歴史ハイキングを交えながら、郷土西宮について学習するという事業を行っている。開館以来28年間継

続し、好評を博している。

#### オ 協働事業の実施

郷土資料館では、市内に散在するいわゆる未指定の文化財に関する情報の収集と、市内博物館等施設との情報交換や連携を目的として、郷土史に関してより深く興味を抱く市民を対象に、市内に所在する博物館や資料館との協働事業や共催事業を推進している。

##### (ア) 市内の博物館との連携（西宮博物館・資料館連携講座）

連携講座とは、西宮市内に所在する登録博物館等との連携事業で、現在は公益財団法人辰馬考古資料館及び公益財団法人黒川古文化研究所と当郷土資料館とが連携協力して実施する講座である。各館の学芸員や研究員がそれぞれの所属する施設が所蔵している特徴的な博物館資料や各種調査の成果を、市民に対して情報提供しようとするものである。平成24年度から開始し、本年度は合計8回を開催した。地域に所在する優良な資料（国宝や重要文化財）に関する情報を紹介し、地域の博物館に関心を持っていただく機会となることも目的としている。

また、辰馬考古資料館及び黒川古文化研究所とは、従来から共催事業として講座講演会を定期的実施しており、恒例の文化財講座として市民の関心は高い。

##### (イ) 市民との協働（西宮歴史調査団事業と郷土資料館歴史講座）

「西宮歴史調査団事業」は、地域の歴史に関心を寄せる市民との協働事業として実施している。事業の目的は、市域に所在する未指定の文化財に関する情報を網羅的かつ悉皆的に収集することであり、それらの情報を収集しながら文化財や博物館資料に親しもうとする市民との協働事業である。調査団への参加は市政ニュース等で募集し、事前に設定した調査テーマのいずれかに属し、定期的な月例会や日常的な調査に参加する。調査収集した情報は、地図へとプロットされ、1件1枚の情報カードへとまとめていく。地域の文化財を全体として活用していこうとする場合に必ず必要となる地域文化財の基本台帳作りを目指している。その成果は、活動報告を掲載した年報や教育普及用の冊子にまとめる一方、調査に参加する市民による一年間の活動報告会や文化財現地説明会の開催へと結実している。平成23年度には調査成果に基づく『甲山八十八ヶ所』という報告書が完成し、市民への配布（有料）を行っており、好評を博している。

「郷土資料館歴史講座」事業は、郷土史愛好グループとの協働事業として実施している講座である。地域の歴史と直結するテーマを設定して郷土資料館学芸員が調査成果を報告する講座で、地域の歴史に強い関心を寄せる市民への情報提供を主な内容としている。講座は市政ニュースで広報し、郷土史愛好グループの会員と市民とが参加する。地域史への関心は非常に高く、平日の開催にもかかわらず多くの参加者を集めている。

#### カ 資料収集保存事業

資料収集事業としては、館蔵資料を展示等で公開することで新たな資料提供を市民へ呼びかけるとともに、古書店等で郷土資料を購入し、西宮の郷土に関する資料の収集を行っている。

資料保存事業としては、展示室・収蔵庫等の害虫生息調査を実施し、防虫・防黴ガス

による処理を行っている。

## (2) 名塩和紙学習館（分館）

### ア 体験実習を主体とする施設

市立郷土資料館分館名塩和紙学習館の最大の特長は、和紙に関する専門施設であるという点にある。和紙に関する情報を収集することができ、紙漉き体験ができる施設は阪神間では他に類を見ない。その学習館は、国及び兵庫県指定文化財であるとともに兵庫県下でも代表的な伝統産業でもある「名塩紙」が実際に生産されている地域に所在しており、児童生徒をはじめ市民にとっては産業そのものとその歴史的環境を同時に学ぶことができるという、良好な地域学習の場となっている。特に、児童生徒による地域学習を促進するという点から、小学校による団体利用を推進している。

また、一般利用者に対しても、常設展示により各種の情報提供を行うとともに、有料で紙漉きの実地体験をすることができ、自分で漉いた和紙を手にすることができる。5月・7月・9月・11月には個人で紙すき体験ができる「紙すき教室」、4日間連続で名塩和紙製作の工程が体験できる「本格紙漉きに挑戦！～雁皮から紙を漉いてみよう～」等の事業を実施している。このほか名塩和紙学習館紙漉き推進委員会との協働事業として、夏季、春季の学校休業時に「親子紙すき」を開催し、児童生徒と保護者がともに和紙について学習する機会を設けている。

### イ 学校教育との連携

学校、特に小学校との連携を積極的に実施している。小学3年生時の市内学習では多くの学校が和紙学習館を訪れ、紙漉き実習に参加しながら和紙に親しむ機会をもっている。また、学習館のある地元西宮市塩瀬地域の小学校（3校）では、小学校低学年から紙漉きに親しむことができるように、実習を授業に取り入れ、その成果として6年生時には各自の卒業証書を自分が漉き、自作の和紙による卒業証書を受け取って卒業するという事業を実施している。学校の利用を促進するため、学校団体利用については指導負担金等を全額免除することとし、学校利用に配慮している。

## 3. 郷土資料館の収蔵資料

平成23年度末で37,443点となった収蔵資料の特徴について紹介する。

### (1) 民俗資料（民具） 8,529点

民俗資料の主要なものは、有形民俗文化財（民具）である。民具は郷土の暮らしの変遷を直接に物語るものであるから、郷土資料館開館以後、重点的に収集してきた資料である。農具・漁撈道具・鍛冶屋道具・山樵用具・紡織関係資料等、農具を中心とする生業に関する資料（3,330点）、名塩紙製作用具・寒天製作用具・竹細工（製品）等、伝統産業に関する資料（210点）衣服・履物・調理用具・飲食用具・家具・暖房器具・燈火用具等、日常的な生活を物語る資料（3,454点）、社会生活資料・民俗信仰等資料（1,535点）を収蔵する。

### (2) 教育資料 17,166点

教育、特に初等教育に関係した史資料を収蔵している。その中心は初等教育用の教科用図書で、江戸期の「往来物」から昭和20年代までのものを計4,011点を収蔵する。「文教住宅都市宣言」を行った市であることに因んだコレクションである。教科用図書に加えて、いわゆる「学校民具」と称される教具、通知表及び学校教材等を多数所蔵し、かつての学校風景を復元することも可能である。博物館のコレクションとしては非常にユニークなもので、学校教育をテーマにした特別展示において展示公開されてきた。

### (3) 考古資料 638点

市指定文化財である「考古小録及び関係品」や「甲山出土銅戈」等の伝世資料及び、発掘調査により出土した資料を収蔵する。特に、西宮市指定文化財「考古小録及び関係品」資料（西宮市指定文化財）は、明治大正期から市内で地道に採集されてきた実物とその克明な採集記録がそろったもので、興味深いコレクションであるとともに、本市の文化財保護行政上においても貴重な情報を提供する資料として重要である。また、宅地化する以前に所在した古墳出土の副葬品も多く収蔵し、常設展示室で公開し、一般観覧者及び児童生徒の学習に供している。

### (4) 歴史資料 10,167点

「慶長十年撰津国絵図」や豊臣氏奉行衆裁許状・前田玄以書状（市指定文化財）をはじめ、近代期の西宮が形成される過程を活写したポスターや絵葉書等の資料が含まれる。近世以前の資料の中には、寄贈された中国銭貨のコレクション等も含む。

また、郷土資料館では開館以後、資料保存のために精緻なレプリカや模型を製作してきた。これらも博物館資料として有用なものであり、歴史資料に含めている。

### (5) 戦時生活資料 943点

第2次大戦期を中心とした戦時期の生活を物語る資料である。本来なら生活用具として位置付けることが可能だが、戦時期の特殊な生活状況を物語るコレクションとしてまとめている。戦時郵便や召集令状等を含む。

## 4. 収蔵資料目録と研究報告

収蔵収蔵資料の内容は、『収蔵目録』として第一集「教科用図書」第二集「民俗資料（1）」第三集「民俗資料（2）」第四集「下大市文書（中島家）」第五集「下大市文書（中村家）」第六集「西宮市所蔵文書（1）」を刊行し公開している。

研究紀要として『研究報告』第一集から第九集までを刊行し、研究者からの寄稿も含め学芸員の研究成果の発表の場となっている。

このほか、館の最新情報を発信するニュース（年2回発行）、館報等の刊行物がある。

## 5. 郷土資料館の入館者数100万人に達成

平成25年3月27日、入館者数が100万人に達し、入館者100万人達成記念事業を開催した。入館者100万人目となった家族には、西宮市長より名塩和紙で作られた認定書、記念品の写真集と当館の刊行物が贈呈された（写真1）。

## むすび（未来へむけて）

最後に登録博物館として、今後の展望と課題についてまとめておきたい。

### （1）災害対応

海浜部に近く収蔵庫が地下1階にあるので、災害時特に津波への対策を検討しなければならない。まず、急避難マニュアルの整備、文化財レスキューとの連携を考える必要がある。そのためにも、郷土資料館の収蔵資料はもちろん、近隣の文化財所在情報について、情報を整備して備える必要がある。



【写真1】入館者数100万人達成記念行事

### （2）市民との協働の推進と歴史資料の発掘

市民との協働として、文化財調査ボランティア事業をさらに推進していく。地域の文化財を歴史資料として発掘し、この成果を適時まとめていくとともに、市民自身によって地域の歴史や文化財に感心を寄せる市民を育成することができる活動を増やしていきたい。また、郷土史に関心のある郷土史愛好グループとの共催講座は今後も継続し、市民の関心が高い事業を実施していきたい。

### （3）常設展示室の整備

開館以後28年が経過したが、常設展示室は大幅な展示替は行っていない。市民より寄贈を受けて収蔵庫に保存されている多くの民俗資料を常設展示として生かして行く方法を研究する必要がある。民俗資料の多くは明治・大正・昭和の初期の時期に西宮で使用されたものであるので、西宮の暮らしを体現するものである。

## 寄贈資料一覧（平成24年6月～平成25年3月、敬称略）

---

俘虜用郵便葉書、内容検閲済郵便葉書、満州絵葉書（杉原賢治）、宿々御伝馬助成金御貸附質地証文（津高正光）、地券（11点）（小山修治郎）、味噌樽、浮樽、鯛枴、杓、カマ、オヒツ蓋の型、曲線定規、カマ型抜き側、折定規、角樽装飾型、平鉦、内鉦、外鉦、木割槌、締木、矢（名川隆義）、オゼン（10点）（野木正彦）

---

## 目次 CONTENTS

登録博物館への登録と入館者数100万人（俵谷 和子）…1

寄贈資料一覧… 8

---

西宮市立郷土資料館ニュース第38号 平成25年（2013）3月31日